ハーティーちゃんの地元自慢コラム

JIMOTO JIMAN COLUMN

日本酒で乾杯！

VOL.1 酒蔵編5（50音順）

ルポライターのハーティーちゃんが紹介するシリーズ"酒蔵編"第5回です。

白鶴酒造株式会社

代表取締役社長　嘉納 健二 氏
東灘区住吉南町4－5－5
http://www.hakutsuru.co.jp/
創業年：1743年（寛保3年）

自慢の一品
「白鶴錦 720ml」

1743年（寛保3年）に創業した白鶴酒造ですが、お酒はお祝いや神事等に供され、めでたい名前をつけるということで、白＝透明・澄んでいる、鶴＝翼が大きい・めでたい　とのイメージで「白鶴」の銘を使用し、現在に至っています。

会社として、「時をこえ 親しみの心をおくる」という理念の下、「米」、「水」、「人」を原点とした酒造りを基本としつつも、四季醸造蔵、生貯蔵酒、CIなどを先駆けて導入するなど進取の精神も持ち続けています。

「白鶴」といえば、紙パックの「まる」も有名ですが、これも特別の日のお酒だけでなく、より親しみやすく、心が丸くなる様にとの願いを込めて開発されたお酒だそうです。

白鶴資料館

お話を伺った嘉納健二社長は、11代目を継承。7代目嘉納治兵衛氏の言葉である「祖業謹守」を座右の銘と仰ぎ、本業をおろそかにしない、軸はぶれてはいけないという教えを忠実に守っておられます。　その甲斐あって、独自に開発した酒米「白鶴錦」を100%使用した『白鶴錦　720ml』が、09年・10年と2年連続でモンドセレクション最高金賞を受賞されました。

取材を終えて、私自身近所過ぎて実は行った事がない、国宝や重要文化財を収蔵されている「白鶴美術館」にもぜひ一度行ってみたいと思いました。

株式会社安福又四郎商店

取締役社長　安福 節子 氏
東灘区御影塚町1－5－10
http://daikoku-m.com/
創業年：1751年（宝暦元年）

自慢の一品
「大黒正宗」

六甲山系の水で日本酒を造られたのが、1751年（宝暦元年）今から約260年前。安福又四郎商店として創業され、現在11代目の安福節子社長にお話を伺いました。門をはいると蔵と大きな貯蔵樽があり、手造りの酒造会社のたたずまいを感じました。

1995年（平成7年）の阪神淡路大震災で木造蔵はすべて倒壊。窮地においても、「『大黒正宗』と『灘』の地名は残さねばいけない」という現社長の信念と「蔵を応援してくださる方がおられる限り、どんな状況でも酒造りを続けていく」という決意の元、一つ残った蔵にて酒造りを続けておられます。

小売にこだわり、酒屋との直取引きに切り替えた今では、そんな酒屋さん達が「大黒正宗後援会」として、ファンの集い「大笑快」を毎年御影公会堂で開催され、今年も10月17日に盛会裏に終わりました。

熟練の杜氏の手仕事にこだわった酒は少量しかできません。火入れされない大黒正宗は、まさに「ツウ」の酒！「灘」を誇る大黒正宗の想いが口の中で広がります。

「灘の地酒」を大切に想われる社長の気持ちが強く心に響く、安福又四郎商店です。

取材：広報委員／福本（文）、岸本（文）、海﨑、髙永（イラスト）